



国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し カナダ・アメリカセット 小学校向 内容紹介

このセットに含まれる本の内容紹介です。

学校での本の紹介や展示、学校図書館での選書などにご利用下さい。

※外国語の本にある日本語タイトルは参考訳です。

1. 国別大図解世界の地理 5 (南北アメリカの国々) 改訂版

井田仁康 監修

学研プラス 2019年

北米2国と中南米の主な21の国々について、首都、人口などの基本データ、自然や産業、歴史などを、カラー写真や図を使って一目で特色がわかるように紹介している。巻頭の南北アメリカの地図で全体の位置関係を把握し、巻末の基本データ一覧で南北アメリカ全35か国を比較できる。

2. DOOR : 208の国と地域がわかる国際理解地図 4 (北アメリカ)

地図情報センター 2019年

カラフルなイラスト地図で各国への理解を促すシリーズ。一つの国を見開き2ページで取り上げ、人口などの基本データや国旗、国際オリンピック委員会が定めた略称、挨拶の言葉などを紹介。多様なイラストと地図でその国の概要をつかむことができる。4巻ではカナダ、アメリカ合衆国、アメリカ合衆国領プエルトリコなどを掲載する。巻末に索引あり。

3. オリンピック・パラリンピックで知る世界の国と地域 5 (南北アメリカ)

日本オリンピック・アカデミー 監修

小峰書店 2018年

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに出場した206の国と地域をすべて紹介するシリーズ。第5巻では南北アメリカを取り上げる。それぞれの国と地域ごとに、人口や面積などの基本情報、歴史や文化、これまでのオリンピック・パラリンピックでの活躍、日本との関係について紹介している。巻末に用語解説あり。

4. 写真で学ぶ世界遺産 2 (南北アメリカ・オセアニア)

平川陽一 編著

汐文社 2015年

文化遺産、自然遺産など、ユネスコの世界遺産を豊富なカラー写真で紹介するシリーズ。アメリカでは自由の女神、独立記念館など13か所、カナダでは恐竜州立自然公園など4か所を掲載している。巻末に用語解説・参考文献あり。

5. 聞いてみました！日本にくらす外国人 3 (アメリカ・カナダ・ブラジル・コロンビア)

佐藤郡衛 監修
ポプラ社 2018年

来日した外国人に、日本に興味をもったきっかけや来日の理由、現在のくらしや仕事などをインタビューするシリーズ。3巻ではアメリカ・カナダなど4か国の出身者を取り上げる。各章の最後にその国の基本情報がまとめられている。巻末に索引あり。

6. のぞいてみよう外国の小学校 3 (アメリカ、キューバ、ブラジルほか)

ERIKO 著, メディア・ビュー 編
汐文社 2023年

外国の子どもたちがどのような学校生活を送っているか紹介するシリーズ。第3巻の本書では、アメリカ、カナダなど16か国が取り上げられている。国ごとに学校の制度や小学生の1年間の流れがわかるほか、「小学校へ潜入！」コーナーではカリキュラムや学習方法、学校行事、日本との違いについて写真とともに解説している。

7. 元気が出る！世界の朝ごはん 5 (北・中央アメリカとカリブ海)

服部幸應, 服部津貴子 監修
日本図書センター 2007年

朝ごはんを通じて世界の食文化と朝食の大切さを紹介するシリーズの5巻目。カナダの朝ごはんとして、カナダの特産品であるメープルシロップを添えたワッフルが紹介されている。アメリカからはエッグ・ベネディクト、またハワイからはロコモコが取り上げられている。

8. なぞに生まれ！世界の恐竜 1 (アメリカ大陸)

渡部真人 監修
汐文社 2020年

様々な恐竜についてエリアごとに紹介するシリーズ。第1巻ではティラノサウルスやトリケラトプスなど、アメリカ大陸で暮らしていた恐竜を取り上げる。恐竜のイラストのそばには人間の大人のシルエットが添えられ、大きさを想像しやすくなっている。シーラカンス類などの同時代の生き物についても解説がある。

9. 南北アメリカのあやとり：先住民の文化と生活から生まれたかたち

野口とも 著
誠文堂新光社 2019年

各地域の人々が伝えてきたあやとりを紹介するシリーズ。第1章は、見開きごとに1種類ずつあやとりの写真と紹介文を掲載。第2章では、第1章で紹介した中から、12のあやとりについて、実際にどのように形を作っていくかイラストで紹介する。「嵐の雲」や「開拓地の家」など、自然や歴史を表すあやとりも掲載。

10. もっと調べる世界と日本のつながり 2 (アメリカ)

井田仁康 監修

岩崎書店 2020年

文化や風土、子どもの暮らしなど、様々な観点から日本と世界のつながりを紹介するシリーズ。第2巻の本書ではアメリカを取り上げ、国の基本情報、アメリカ発祥の文化、教育制度などについて写真やイラストを豊富に用いて解説している。

11. ジス・イズ・ワシントン D.C.

ミロスラフ・サセック 著, 松浦弥太郎 訳

ブルース・インターアクションズ 2007年

世界の都市を旅して描いた「ジス・イズ」シリーズの1冊。ワシントンは、アメリカ初代大統領の名にちなんでつけられた特別区で、政治の中心地である。ホワイトハウスやFBI(連邦捜査局)本部のある司法省等を案内する内容となっている。スミソニアン博物館のページでは、ロケットや恐竜の化石、大きな宝石など展示品も紹介している。

12. 図書館に児童室ができた日 : アン・キャロル・ムーアのもものがたり

ジャン・ピンボロー 文, デビー・アトウェル 絵, 張替恵子 訳

徳間書店 2013年

図書館があっても子どもが自由に使うことや本を借りることができなかった時代に、ニューヨークで子どものためのサービスを行い、子どものための図書室をつくったアン・キャロル・ムーアの伝記絵本。彼女がはじめた図書館における子どもへのサービスは、アメリカ全体から世界各国へ広がり、現在図書館で行われている児童サービスの礎となっている。

13. あるヘラジカの物語

鈴木まもる 絵と文

あすなろ書房 2020年

写真家の星野道夫が撮影した1枚の写真から着想を得た絵本。写真には角が絡み合ったままのヘラジカの頭蓋骨が写っている。なぜ2頭のヘラジカはこんな状態で骨になったのか、その背景にあるアラスカの大自然のドラマを描いた物語。

14. 月とアポロとマーガレット : 月着陸をささえたプログラマー

ディーン・ロビンズ ぶん, ルーシー・ナイズリー え, 鳥飼玖美子 やく

評論社 2018年

幼いころから色々なことに挑戦し、特に数学と宇宙に興味を持ったマーガレット。彼女はやがて、NASAアポロ計画においてソフトウェア・プログラミングの責任者になる。アポロ11号の月着陸を成功に導いたソフトウェア技師、マーガレット・ハミルトンの半生を描いた伝記絵本。

15. スミソニアンに恐竜がやってきた！

ジェシー・ハートランド さく，志多田静 やく
六耀社 2016年

約1億4500万年前、アメリカ合衆国ユタ州に生息していた巨大な恐竜ディプロドクス。現在は化石標本となってスミソニアン国立自然史博物館に展示されている。この恐竜はどのように発掘され、どのように修復され、どうやって博物館に運ばれたのか？恐竜の研究に携わる人々と、化石が博物館にやってくるまでの道のりを紹介した絵本。巻末に「恐竜についての豆知識」あり。

16. こんにちは、ビーバー（たくさんのふしぎ傑作集）

佐藤英治 文・写真
福音館書店 2007年

アラスカの大自然に暮らすビーバーの生態を伝える写真絵本。森の木を使う巣作りの様子や体の特徴、食事、天敵との闘いなど、ビーバーが力強く生きていく姿を、ダイナミックな写真から詳しく知ることができる。

17. つながるいのち：うみ・もり・ひとの物語

松本紀生 著
教育出版 2023年

アラスカの自然を躍動感あふれる写真で綴った写真絵本。きれいな川に棲むサケをクマが食べ、そのフンが森の植物の肥料になり、豊かな森が動物たちの生きる場所やエサとなり、森の中から流れ出た栄養分が海も豊かにする。川から森・森から海へつながり合い支え合う自然界の循環について、写真を通して伝えるとともに、人間と自然の関係についても問いかける一冊。

18. 月ようびはなにたべる？：アメリカのわらべうた

エリック・カール え，もりひさし やく
偕成社 2020年

月曜日から日曜日まで、毎日いろいろな動物が登場してはいろいろなものを食べることを歌ったアメリカのわらべうたに、『はらぺこあおむし』作者のエリック・カールが絵をつけた絵本。動物たちや食べ物が鮮やかな色彩で描かれている。本文は日本語と英語の2か国語で書かれており、巻末には楽譜を収録している。

19. コヨーテのはなし：アメリカ先住民のむかしばなし

リー・ペック 作，ヴァージニア・リー・バートン 絵，安藤紀子 訳
徳間書店 2020年

アメリカ南西部の先住民たちの間では、コヨーテが最も賢い動物だといわれており、様々な話が伝えられている。「コヨーテ、人間に火をとってくる」「コヨーテ、空を飛ぶ」などコヨーテの活躍を描く昔話集。絵本『ちいさいおうち』などで知られるヴァージニア・リー・バートンによる、多くのカラー挿絵も楽しめる。

20. 森のなかの小さなうち

エリザ・ウィーラー 作，ひらおようこ 訳
工学図書 2022年

世界恐慌のさなかにあった1930年代アメリカの家族の物語。父親を亡くし、町の家を立ち退いて森の中で暮らすことになった8人の子どもたちと母親が、四季折々の豊かな自然の中で幸せを見つけていく。作者の祖母の実体験を基に描かれている。

21. 魔法のことば：エスキモーに伝わる詩（日本傑作絵本シリーズ）

柚木沙弥郎 絵，金関寿夫 訳
福音館書店 2000年

エスキモーの人々に伝わる一篇の詩をもとに生まれた絵本。はるか大昔、人と動物の区別はなく、みんなが同じことばをしゃべっていた。このときのことばは「魔法のことば」で、口に出して言えば望んだことが本当に起こる不思議な力を持っていた。想像力豊かに、太古の世界を力強く描いた一冊。

22. カナダ（体験取材！世界の国ぐに 1）

渡辺一夫 文・写真，松本輝彦 監修
ポプラ社 2006年

世界で最も住みやすい国のひとつと言われるカナダは、100以上の民族が広い国土に暮らしている。市場や家庭、食事、教育政策などを多くの写真で紹介する。酪農一家のメープルシロップづくりは、森から樹液をホースで流すところから始まり興味深い。冬に出現する氷の滑り台などマイナス30℃の世界も見える。巻末に国の歴史と日本との交流、基本データ、索引あり。

23. カナダ（ナショナルジオグラフィック世界の国）

ブライアン・ウィリアムズ 著，トム・カーター，ベン・セシル 監修
ほるぷ出版 2007年

世界第2位の国土を持つカナダの地理、自然、歴史、文化、政治・経済を鮮明な写真と地図やグラフで解説する。ホッキョクグマが生ごみを漁る町や凍った道でホッケーをする子どもの写真からは、北極圏の厳しい環境が伺える。林業が盛んで、丸太転がしや木登りなど、きこりの技を競う大会がある。巻末にミニ情報のほか、年表、用語解説、索引あり。

24. 春をさがして：カヌーの旅（たくさんのふしぎ傑作集）

大竹英洋 文・写真
福音館書店 2020年

アメリカ北部からカナダの北極圏にかけて、「ノースウッズ」と呼ばれる森と湖の世界が広がっている。この場所で40年以上、カヌーの旅をしているウェインに同行した著者が、季節が移り変わる大自然の様子を記録した写真絵本。美しい写真と生き生きとした文章を通して、早春のノースウッズを旅することができる。

25. わたしたちだけのときは

デイヴィッド・アレキサンダー・ロバートソン 文，ジュリー・フレット 絵，横山和江 訳
岩波書店 2018年

カナダ先住民への同化政策の歴史をもとにした絵本。クリー族出身のおばあちゃんは子どもの頃、家族と引き離され遠くの学校へ行かされていた。そこでは制服着用を強制され、長く伸ばした髪を切られ、クリー語を禁じられた。自分たちの誇りを忘れないためにおばあちゃんがとった抵抗を、孫娘の素朴な疑問に答える形で描く。

26. はじめての赤毛のアン シリーズ

L.M.モンゴメリ 原作，小手鞠るい 文，さこももみ 絵
講談社 2021年（アイスクリームのピクニック）

L.M.モンゴメリ 原作，小手鞠るい 文，さこももみ 絵
講談社 2022年（ティーパーティで大事件！）

カナダの作家モンゴメリの長編小説『赤毛のアン』から2章分のエピソードを抜粋し、ひとつのお話として再構成した本。全ページに大きくカラフルな挿絵が描かれている。この本をきっかけとして原作にも触れてもらいたい。

「アイスクリームのピクニック」「ティーパーティで大事件！」のどちらか1冊を貸出。

27. つきよのアイスホッケー

ポール・ハーブリッジ 文，マット・ジェームス 絵，むらおかみえ 訳
福音館書店 2023年

舞台は12月のカナダ。森にあるビーバー池が凍ったのを見て、少年たちは満月の夜を待ちアイスホッケーに出かける。彼らは真冬の夜の厳しい寒さの中、暗闇に輝く満月のもとで、まさらなスケートリンクとなったビーバー池で試合に熱中する。カナダの国技であるアイスホッケーを題材に、少年たちの冒険を神秘的に描いた物語。

28. 森のおくから：むかし、カナダであったほんとうのはなし

レベッカ・ボンド 作，もりうちすみこ 訳
ゴブリン書房 2017年

作者の祖父が子どもの頃に体験した出来事をもとにした絵本。1914年、もうすぐ5歳のアントニオは、カナダの深い森に囲まれた湖のほとりに住んでいた。その年の夏に恐ろしい山火事が起こり、アントニオたちは湖の中に避難する。そこへ、森の動物たちが現れて…100年ほど前の様子や、人間と動物の思いがけない出会いを繊細に描く。

29. カナダのむかし話：金のつなのシカほか

高村博正，篠田知和基 編訳
偕成社 2005年

現在のカナダの文化につながる、先住民や移民の間で語り継がれてきた昔話を集めた物語集。カナダ・インディアン、イヌイット、イギリス系カナダ人、フランス系カナダ人それぞれの昔話が4~7話ずつ収録されている。巻末に各話についての解説あり。

30. 「イグルー」をつくる

ウーリ・ステルツァー 写真と文, 千葉茂樹 訳
あすなる書房 1999年

北極地方に暮らす先住民、イヌイット。彼らは昔、イグルーと呼ばれる雪の家に住んでいた。現在、イグルーで暮らすイヌイットはいないが、狩に出かけた時などは、今でもテント代わりにイグルーを作って使っている。カナダの北のはずれの島に住むイヌイットの猟師が、雪の塊を切り出し、イグルーを作り上げるまでを、写真と短い言葉で説明する。厳しい土地に暮らす先住民の見事な知恵と工夫が感じられる。

31. にぐるまひいて

ドナルド・ホール ぶん, バーバラ・クーニー え, もきかずこ やく
ほるぷ出版 1980年

32. Ox-cart man (英語)

By Donald Hall, pictures by Barbara Cooney
Viking Press 1979年

19世紀初頭のニューイングランド。秋になるとお父さんは荷車を引いてポーツマス市場へ作物や道具を売りに行く。そして荷車や牛まですっかり売り尽くすと、鍋や刺繍針、ナイフを買って家に帰る。そして一家はまた、売り物の道具を作り、かえで砂糖を作り、羊の毛を刈る。古き良きアメリカの1年を、暖かく丹念に描く。

33. 走れ！！機関車

ブライアン・フロッカ 作/絵, 日暮雅通 訳
偕成社 2017年

34. Locomotive (英語)

By Brian Floca
Atheneum Books for Young Readers 2013年

1869年に開通した大陸横断鉄道は、それまで馬車や船で移動していたアメリカの人々の生活を大きく変えた。本書は開通後間もない夏の旅行を想定し、ある一家が蒸気機関車に乗って東部ネブラスカ州から西部カリフォルニア州へと旅する様子を臨場感たっぷりに描いている。巻頭では鉄道のルートや建設について、巻末では蒸気機関車の仕組みについてイラストとともに解説がある。

35. よかったねネッドくん

レミー・チャーリップ さく, やぎたよしこ やく
偕成社 1997年改訂版

ネッドくんパーティーの招待状が来て、出かけていくと…。「よかった！」と「でも、たいへん！」が交互に見開きで現れ、お話が展開していく絵本。絵の色も状況に合わせてカラーと白黒が交互になっている。言葉のリズムが心地よく、自分で読むのも楽しいが、初めは読んでもらった方がネッドくんの冒険を一緒に楽しめる。日本語と英語の2か国語で書かれているので、言葉による違いも楽しめる。

36. ひとまねこざる

H.A.レイ 文・絵, 光吉夏弥 訳
岩波書店 1983年

37. Curious George takes a job (英語)

By H.A. Rey
Houghton Mifflin 1993年

知りたがりやのさるのジョージが動物園を脱け出して、街へ出る。皿洗いをしたり窓拭きをしたり落書きをしたりと、なんにでも首を突っ込むジョージの姿を、ユーモラスに描く。日本でも長く読み継がれている絵本。

38. 旅の絵本 4 (日本傑作絵本シリーズ)

安野光雅 著
福音館書店 1983年

世界の様々な地域の街並みや自然、そこで暮らす人々の生活を、旅人の視点を通して繊細に描きこんだ絵本シリーズ。文字はなく、絵だけで構成されているため、年齢を問わず楽しめる。第4巻の旅の舞台はアメリカ。西海岸から上陸して東に進んでいく中で、アメリカの歴史や暮らしに触れることができる。よく見ると『かいじゅうたちのいるところ』などの一場面も隠れている。

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 児童サービス企画係
URL : <https://www.kodomo.go.jp/>